

共通取組 重点取組	平成25年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・授業力・指導力向上に向けた研究を充実させ、「分かる授業」「魅力ある授業」を展開する。 ・一人ひとりの児童のニーズや実態に合った、分かりやすい授業を行う。	・全教職員が共通理解のもと、学力向上のために研修研究などをして取り組んでいる。学年によっては算数の授業でT Tの形をとったり、少人数にするなど、単元によって授業の形を変えることで、子供への指導がきめ細やかにできた。	A ⓑ C D
2 豊かな 心	・友達とかかわるなかで思いを共有して、互いに認め合い、励まし合って豊かな学校生活を過ごそうとする心情や態度を育てる。	・関わること、日常であいさつや話の聞き方など、全教職員が共通理解して取り組みたい。	Ⓐ B C D
3 健やかな 体	・心身ともに健やかな成長をめざし、自ら健康で安全な生活を送ることができるようにする ・自分の目標に向かって根気強く挑戦するとともに、友だちと一緒に運動することの楽しさを味わえるようにする。	・朝食、歯磨きなどやはり定着しない。特に、歯磨きタイムは学校の昼食時間に時間を設定してもよいのではないかと考える。 ・家庭環境の影響が大きく、生活自体が成り立っていない児童が多いことが課題である。	A ⓑ C D
4 教育課程 学習指導	・総合活動を核とした授業の充実を図る。 ・「授業力」と「教師力」の向上をめざして公開授業を行い、外部講師や他校の方からの評価を仰ぐ。	・総合活動を中心として丁寧に研究研修ができていと思う。一方、総合ともつながっているとは思いますが主要教科の技量をもっとつけていく必要があると考えている。	A ⓑ C D
5 児童指導	・児童支援専任を中心に全教職員で組織的な児童指導を行う。	・専任の先生を中心に組織的な児童指導が行われている。重い課題を抱えていたり、家庭の事情を抱えていたりしても、学校でしっかりと体制ができていて、そこで教わっている児童は多い。	Ⓐ B C D
6 特別支援 教育	・特別支援コーディネーターを複数指名し、月1回校内委員会を開催するとともに、校内研修会を実施、特別支援教育推進のため校内支援体制を関係機関と連携しながら整備する。	・コーディネート会議が月1回の校内委員会とセットで行われているが、児童指導の面と特別支援の面とが重なっているため、特別支援の支援策を一人ひとりが十分に把握していくことが必要。	Ⓐ B C D
7 保健・ 安全管理	・学校保健指導計画・食教育の全体計画をたて「健康・安全で幸福な生活を営むことのできる態度・能力の育成」に取り組む。	・安全面については、特に不審者対応避難訓練等では、外部機関と連携した訓練が必要と考える。	A ⓑ C D
8 人材育成 組織運営	・教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、初任研や2・3年次研を充実させるとともに、重点研究・学年研究会を計画的・組織的に行う。	・全体的に若い職員が増えてきている中、組織としての意識が課題である。初任研、2・3年次研の充実を図ることが必要である。また、職員同士のコミュニケーション、互いに思いあう気持ちを互いに意識できる職場づくりを目指したい。	A ⓑ C D

共通取組 重点取組	平成26年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・授業力・指導力向上に向けた研究を充実させ、「分かる授業」「魅力ある授業」を展開する。 ・一人ひとりの児童のニーズや実態に合った、分かりやすい授業を行う。	・全教職員で目指す授業のあり方を共通理解したうえで、問題解決的な授業やクラスの子どもが意欲的に取り組めるよう、学年で教材研究や事前実験等を行っている。また、学年によっては算数の授業でT Tの形をとったり、少人数にしたりするなど、単元によって授業の形を変えることで、子どもへの指導がきめ細やかに行おうと努めた。	A ⓑ C D
2 豊かな 心	・友達とかかわるなかで思いを共有して、互いに認め合い、励まし合って豊かな学校生活を過ごそうとする心情や態度を育てる。	・日常からあいさつすることや話を聞く姿勢をつくることなど、全教職員が共通理解したうえで指導に取り組んだ。また、話し合い活動で、友達の話を共感的に聞く指導を育てることで、他者理解を深められるようにしてきた。	Ⓐ B C D
3 健やかな 体	・心身ともに健やかな成長をめざし、自ら健康で安全な生活を送ることができるようにする ・自分の目標に向かって根気強く挑戦するとともに、友だちと一緒に運動することの楽しさを味わえるようにする。	・天気の良い日の中休みや昼休みは校庭に出て遊ぶように全校で指導してきた。 ・家庭環境の影響が大きく、早寝早起きや朝食などの基本的な生活習慣が定着していない。また、家庭生活そのものが成り立っていない児童が多いことが課題である。	A ⓑ C D
4 教育課程 学習指導	・総合活動を核とした授業の充実を図る。 ・「授業力」と「教師力」の向上をめざして公開授業を行い、外部講師や他校の方からの評価を仰ぐ。	・総合活動を中心とした授業研究を行い、単元開発や1時間の授業づくりの在り方を追究してきた。ここで得られた成果をさらに教科の授業力に広げていくことが今後の課題である。	Ⓐ B C D
5 児童指導	・児童支援専任を中心に全教職員で組織的な児童指導を行う。	・児童指導専任を中心に、学校全体や学年で組織的な児童指導が行われている。子どもも課題や家庭の事情などを職員で共有し、対応することで、指導の成果が表れてきている。	Ⓐ B C D
6 特別支援 教育	・特別支援コーディネーターを複数指名し、月1回校内委員会を開催するとともに、校内研修会を実施、特別支援教育推進のため校内支援体制を関係機関と連携しながら整備する。	・コーディネート会議が月1回の校内委員会とセットで行われており、学校としての児童支援や特別支援の方針を話し合い、それを全職員で共通理解することで、全校で指導や支援にあたるようにしている。	Ⓐ B C D
7 保健・ 安全管理	・学校保健指導計画・食教育の全体計画をたて「健康・安全で幸福な生活を営むことのできる態度・能力の育成」に取り組む。	・安全面では、前年度課題にあがった不審者対応避難訓練で、外部機関と連携した訓練にむけた研修を行った。今後、様々な場面で想定した訓練を計画し、実施していく予定である。	A ⓑ C D
8 人材育成 組織運営	・教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、初任研や2・3年次研を充実させるとともに、重点研究・学年研究会を計画的・組織的に行う。	・全体的に若い職員が増えてきている中、初任研、2・3年次研、5年次研の授業研などを通して互いに研鑽し、力量を高めてきている。今後はメンターチームを組織して計画的な研修計画を立てる必要がある。	A ⓑ C D

共通取組 重点取組	平成27年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・授業力・指導力向上に向けた研究を充実させ、「分かる授業」「魅力ある授業」を展開する。 ・一人ひとりの児童のニーズや実態に合った、分かりやすい授業を行う。		A B C D
2 豊かな 心	・友達とかかわるなかで思いを共有して、互いに認め合い、励まし合って豊かな学校生活を過ごそうとする心情や態度を育てる。		A B C D
3 健やかな 体	・心身ともに健やかな成長をめざし、自ら健康で安全な生活を送ることができるようにする。 ・友だちと一緒に運動することの楽しさを味わうとともに、運動量を確保するために、時間や場、用具などの活用の仕方を見直す。		A B C D
4 教育課程 学習指導	・総合活動を核とした授業の充実を図る。 ・「授業力」と「教師力」の向上をめざして公開授業を行い、外部講師や他校の方からの評価を仰ぐ。		A B C D
5 児童指導	・児童支援専任を中心に全教職員で組織的な児童指導を行う。		A B C D
6 特別支援 教育	・特別支援コーディネーターを複数指名し、月1回校内委員会を開催するとともに、校内研修会を実施、特別支援教育推進のため校内支援体制を関係機関と連携しながら整備する。		A B C D
7 保健・ 安全管理	・学校保健指導計画・食教育の全体計画をたて「健康・安全で幸福な生活を営むことのできる態度・能力の育成」に取り組む。		A B C D
8 人材育成 組織運営	・教職員が互いに研鑽し、力量を高めることができるように、初任研や2・3年次研を充実させるとともに、重点研究・学年研究会を計画的・組織的に行う。		A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・教職員全体で生徒を育てようという姿勢で取り組んでいると感じた。子どもが落ち着いて授業に取り組んでいる。 ・空き時間の先生が廊下にいたり、国語の授業でもT Tを取り入れ、個に応じた学習を展開している。生徒への授業保障と学校生活の充実を目指そうとしている。
学校関係者 評価結果	・日枝っ子まつりでの子どもたちの姿を中心に、学校の中で生き生きと過ごす子どもたちの姿を誉めていただいた。地域での活動も多く、地域との関わりも多い。
評価結果に 対する 学校の見解	・地域の一員としての自覚を育て、地域での過ごし方については、子どもたちに指導していく必要があると考えている。また、日枝っ子まつりには、保護者だけでなく、地域の方にも多く来ていただきたい。日頃の学習の成果や子どもたちの様子を公開し、多くの意見をいただけるようにしていきたい。

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・子どもたちが落ち着いて授業に取り組めるよう、教職員全体で生徒を育てようという姿勢で指導にあっている。 ・空き時間の先生が各教室を回って授業に入ったり、算数の授業でT Tを取り入れたりして、個に応じた学習支援を展開している。生徒への授業保障と学校生活の充実を目指そうとしている。
学校関係者 評価結果	・日枝っ子まつりでの子どもたちの姿を中心に保護者や地域の方々に見ていただくことで、本校の取組にご理解をいただくとともに、子どもたちの生き生きと活動に取り組む姿勢に対する高い評価をいただくことができた。 ・1月に研究発表会を行い、本校の総合活動の取組の成果を校外に向けて発信した。参会者から、長年の本校が行ってきた取組に対して評価をいただくことができた。
評価結果に 対する 学校の見解	・子どもたちに、地域の一員としての自覚を育て、地域でどのようにかかわりながら過ごしていくかについては、今後も指導していく必要があると考えている。日頃から保護者だけでなく、地域の方にも本校に対して温かい目で見守っていただいている。今後も様々な場面で積み重ねてきた学習の成果や子どもたちの様子を公開し、多くの意見をいただけるようにしていきたい。

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

学校経営 中期目標 達成状況	・児童指導を中心に、一人ひとりの子どもを全職員で見ているという姿勢は学校全体的にある。また、総合学習を核とした研究を行うことで、子どもたちが意欲的に学校での生活を送ろうとする姿が見られる。各教科における、「分かる授業」「魅力ある授業」の展開が、来年度の課題と考えられる。
----------------------	---

学校経営 中期目標 達成状況	・児童指導を中心に、一人ひとりの子どもを全職員で見ているという方針を共有しながら、学校全体で支援にあっている。また、総合活動を中心とした授業研究を行うことで、子どもたちが自分たちの地域や生活に目を向けたり、意欲的に学校生活を送ったりしようとする姿が見られる。まだ課題の残る子がいるが、こうした取組の結果、改善に向かう傾向にある。教科における知識や技能の習熟にむけた取組を行うことが今後の課題と考えられる。
----------------------	--

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--